

高山を襲った豪雨

平成30年7月豪雨

7月3日から8日にかけて降り続いた大雨は、市内各地に土砂崩れや住宅への浸水などの大きな爪痕を残しました。

連続雨量は3日午後9時の降り始めから8日午前0時まで548.5mmに達しました。これは年間降水量の3分の1に相当し、4日には1時間あたりの降水量として大正3年の観測開始以来最多となる62mmを観測しました。

清見町でも各地で土砂崩れが

この豪雨の残した爪痕は大きく、清見町内においても、せせらぎ街道や卯の花街道沿い、市道や林道などが、土砂崩れによる路肩や道路の崩壊で通行困難になっています。一日も早く町民の皆さんがもとの安心安全な暮らしに戻れるよう、現在、復旧作業が行われています。



卯の花街道にて土砂崩れがありました

清見町内の被害状況

(市が管理する施設)

市道被害	29箇所
林道被害	29箇所
河川被害	4箇所
農業施設被害	6箇所

(7月25日現在)

清見町内の避難所への避難者数

7月5日	7箇所	61人
7月6日	6箇所	145人
7月7日	17箇所	595人



避難所に身を寄せる町民の皆さん(三日町)

暑い夏にプレイボール!

第13回 清見町ソフトボール大会



放ったヒットに大きな歓声が!

7月24日(火)~26日(木)の3日間、清見グラウンドにて、毎年恒例の「清見町ソフトボール大会」を行いました。

中高生を含む町内に在住・在勤する6チーム、約140人が熱戦を繰り広げました。

1日目は、開会式にて大会長の

大岩正幸さんによるあいさつや、

1日目は、開会式にて大会長の

牧ヶ洞の青木真二さんによる選手宣誓などを行った後、道路側のAコートと川側のBコートに分かれて予選リーグの第1試合が開始されました。

試合はいずれも最長で7回、45分間のプレーです。

2日目は予選リーグの第2試合と第3試合、

最終日には決勝戦及び3位決定戦を行いました。

尚、順位及び個人賞は右の通りです。おめでとうございます!



選手宣誓を行う青木さん

優勝	牧ヶ洞
準優勝	飛騨高山森林組合
3位	おどり

最優秀選手	小林 隼斗 (牧ヶ洞) ※中学生
優秀賞	倉坪 晋吾 (飛騨高山森林組合)
敢闘賞	隣垣 拓弥 (おどり)

清見町まち協だより

第41号
平成30年8月1日
清見町
まちづくり協議会
事務所: きよみ館
TEL 77-9516 (直通)

家庭の日は8月19日(日)です
気持ちいい 清見の愛さつ 広めよう

清見中学校 3年生

中道 天介

「寿」りんご体験学習② 「袋掛け作業」



7月9日(月)、清見中2年生が、りんご体験学習の2回目、袋掛け作業を行いました。

毎年、新成人に贈られる寿りんご。袋掛けは、「寿」の文字を浮き出させ、果実が赤くなるのを防ぐための大切な作業です。また病害虫からりんごを守り、着色や貯蔵性を良くするという効果もあります。

大林茂さんによる説明を受けた後、生徒たちは4つのグループに分かれ、1人50枚の袋を受け取り、それぞれの持ち場で作業開始。袋掛けに使用される袋は2重の層になっていて、固定するための針金が付いている特殊な構造です。それをりんごに掛ける作業はちょっととしたコツがいります。



生徒たちは悪戦苦闘しながらも、根気強く作業に取り組みでいました。

わくわくつうしん

7月19日 ブルーベリー狩り

夏真っ盛り! 暑い日が続く中、わくわく教室では福奇のバルメット果樹園までブルーベリー狩りに出かけました。

全22種類、たわわに実ったブルーベリー。こちらは全て無農薬で育てられています。お口に放り込めば、甘酸っぱい味が広がります。夢中でブルーベリーを頬張る子どもたちの姿はとてもほほえましかったです。

栄養たっぷりのブルーベリーを、たらふく食べたわくわくの子どもたちは、熱中症にも負けず元気いっぱいです!



水芭蕉・竜馬石草刈り作業

7月22日(日)、文化財委員・町内会の協力を得て、28人が小鳥峠の水芭蕉及び檜谷の竜馬石周辺の草刈りを行いました。この日は記録的な猛暑日。全身に汗が流れる中、皆さんは懸命に作業に取り組みました。



小鳥峠の水芭蕉周辺



檜谷の竜馬石周辺

きよみ歴史探訪

清見の神社シリーズ② 牧ヶ洞神社

牧ヶ洞神社は系統を異にする複数の神を祀っていることで知られている。

言い伝えによれば、寿永2年(1183)、平家没落後、平家一族の平正盛が飛騨の地へ流れ、牧ヶ洞の地に生首塚と称した居を構えた。正盛の家臣、加賀国の山田次郎義兼が郷里の氏神を勧請した事を機に、その同僚の家臣たちも後を追ってついに自らの本居の神を所々に奉祀した。

永享年間(1409年~1441年)、これらの諸神を二社集め、白山神社としたという。

明治3年(御所)提出した「牧ヶ洞村風土書帳」によると、「生首ノ森(白山神社・現牧ヶ洞神社)」、「宝田ノ森(戸隠社) 他神社の社名が記載されていたよつである。但し祭神を祀り、湯花祭を行っていたのは前述の二社のみだった。

明治時代に入り、当時の清見村副戸長だった井口元泉らの提唱により、白山神社は社殿の改築をはじめ、祭装を新調し、神賑行事をこのあたりに定めた。明治10年頃には村内で最も大きな神社となった。

戸隠社は徳野の里へ亡命した落人が奉祀したものと伝えられているが、確かなことは分からない。明治4年、戸隠社は白山神社ともい村社指定されている。そして明治40年(9月)、県の神社統合に関する勅諭により両社は合併し、現在に至る。



(参考文献「清見村誌」)